

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800325		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム あかるい家		
所在地	夕張郡由仁町東栄16-18		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0175800325-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様お一人お一人の思いを大切に耳を傾け、顔を見てお話しをさせていただき、不安なく生活できますよう共に過ごさせていただいております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム あかるい家」は、静かな住宅街に立地しており、近くに公園があるなど自然環境にも恵まれている。開設後9年が経過する中で、地域で利用者がゆったりと、楽しく過ごせる安心と快適な環境を提供している。運営者と管理者は、大きな行事や避難訓練と同日に運営推進会議を開催し、定期開催に向けて工夫を重ねながら真摯な姿勢で進めている。今後も年間テーマの設定や委員が参加しやすい方法で検討している。災害対策では町内会役員や住民の参加を得て避難訓練を実施し、災害時の発電機や備蓄品類を整備している。福祉関係の職員や消防署職員の自宅が近隣にあり、災害時の協力も得られやすい環境にある。かかりつけ医の継続を基本に訪問診療も可能な体制を整え、受診時には職員が同行して各主治医に相談し、主治医の判断の下で可能な限り看取りケアも行っている。職員は学習会で学びを深め、全職員がサービス内容の評価を行い、介護計画の見直しに参加している。介護計画に基づいた個別ケアを重視し、温かい姿勢で利用者の自立面を支えている。年間を通して、毎月1回は外出できるように工夫し、暖かい時期には、外気に触れる機会を多くして、住民とも自然な触れ合いで交流を深めている。利用者は新鮮な素材を豊富に取り入れた食事を楽しみ、ゆったりと過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間中心部に「地域と共に」の理念を掲示し、忙しさの中でもふと立ち止まり、より良いケアにと実践に向けて努力致しております。	理念を見易い所に掲示し、内部ミーティングで対応を話し合い、理念に触れて確認している。職員は理念にある、利用者のありのままの暮らしを大切にケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアで利用者様のヘアカットに来て下さったり、除雪のお手伝いなどして下さったり、また、畑収穫を一緒に楽しんでいただきました。	事業所の夏祭りに町内会役員や住民の参加があり、定期的な交流の機会になっている。利用者は、近所の子供たちと一緒に事業所の畑で芋ほりを楽しんだり、飼っている犬との散歩中に会話を交わすなど、住民との自然な触れ合いで交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会のゴミ拾いや、リサイクル回収等に参加、協力させていただきながら、交流を図っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内、民生委員、福祉担当者と外部評価への報告、反省、向上についても、さまざまな貴重なご意見を頂いております。	今年度は運営推進会議を4回実施している。大きな行事や避難訓練の同日開催では、家族の参加率が高い。運営状況、外部評価結果などを報告し、会議の開催回数や震災時の対応を議題にあげて討議している。今後も、事前のテーマ設定や開催方法を工夫し、家族と地域との情報交換の場として充実させたい意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場、消防、自治会様と推進会議、避難訓練、受診時、認定調査時、交流させていただき、協力関係をお願い致しております。	書類の提出時には役場へ出向いて確認し、介護認定訪問調査の担当者に利用者の情報などを伝えて協力している。運営推進会議メンバーの福祉課担当者とは常に相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で禁止対象項目の学習を行い日々の関わりで互いに見過ごす事がない様注意しながらケアにいかしていく様日々努力しております。	マニュアル資料に、指定基準の「禁止の対象となる具体的な行為」を追加し、ミーティングや回覧で内容を確認している。安全面から、拘束に繋がるベッド柵の一時的な使用を家族と話し合い、経過を記録に残している。気になる言葉遣いを学習会で話し合い、外に出たい利用者への声かけも、様子を見てから意向に沿って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングの機会に学習し、マニュアル、皆さんの知識、情報のもと、小さな声掛けひとつから、反省、防止に努めております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会で成年後見制度について学んだ内容を口頭又は、パンフでミーティング時に学び合い、各自で支援に役立てております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時に十分理解していただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見などに日々耳をかたむけ、必要に応じてご家族、本部と相談し、対応しております。また、意見箱も設置しております。	家族の来訪時や電話連絡の中で意見を聞くように努め、介護計画の見直し時には家族の意向を取り入れている。意見などは個人記録に記載し、職員は細かな心配りで、利用者・家族の意向に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて話し合いのもと、対応しております。	ミーティング時や日々の業務で気付いたことを職員間で話し合い、対応を決めている。設備などの改善は本部とも相談し、現場の意向を反映させている。管理者は話し易い雰囲気を作り、個人的に話し合う機会も作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の休日や時間帯など、ゆうづうしあい、助け合って、勤務出来るようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部にて研修に出席したスタッフがホーム内にてミーティングし、全員が理解出来るよう、資料の回覧や、報告し、実践に生かせる様に進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な機会を通じて、交流し意見交換の場を設けております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に徐々に慣れていただけますようにお声掛けし、傾聴に時間を費やし仲良くさせていただくよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様のアセスメントを十分取らせて頂き合わせてご家族様の不安を軽減できますよう、意向に添ったケアに向けて努力を重ねております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診介助、入浴介助等必要支援を十分把握したうえで、ご本人、ご家族の意向を踏まえて対応させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	される介助から、出来ない事は一緒に行う者同士への関係に立ちながら行っております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康状態に特変がない限り毎月報告し、体調不順時は、家族を巻き込ませて頂きながら、一緒にケアに関わって頂き本人様に安心を頂いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気候の良い時期に親戚の会いたい人にお連れし、再会していただいたり、昔近所だった方の来所にもゆっくりくつろいで頂くよう配慮致しております。	近所の知り合いだった方に継続的な関わりをお願いし、暖かい時期には頻繁に来訪している。会話の中で利用者の気になることを引き出し、年に数回は職員が墓参りに同行したり、ドライブのついでに自宅周囲を見て回るなど、個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内でそれぞれの方の居心地の良い場所を見極め且つ皆様同士のお顔が見える様に配慮させて頂いております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度退所された方が、長期入院から戻られ再度入所されております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床から就寝まで、食事ひとつをとってもそれぞれ個性がみられ、危険が及ばない限り意向に添った支援を心がけております。	センター方式のアセスメントシートを年に1度は見直し、新しい情報を蓄積している。利用者との会話や行動の観察から、職員間で思いを話し合い、介護計画に載せてケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴のアセスメントを中心に、環境が変わっても安心して暮らせるように馴染みの身の回り品を用意いただき、徐々に慣れて頂くよう心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムに添った支援を行い、小さな身の回りの整理等に楽しみながら参加して頂く様に心配りしております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録方法を話し合いのもと作成し、4月から実施しており、介護計画見直し時に、全職員の評価が反映出来るよう努めております。	3か月毎の見直し時に、全職員が介護計画書を基に評価を行っている。ミーティングで課題の確認後、本人、家族の意向を反映した更新計画を作成している。介護計画に連動した個人記録の方法を工夫しているが、さらに分かり易い記録化に向けて検討中である。	介護計画と連動した記録の書式も検討されているので、次回の見直しに役立つような記録化に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の周知と共に、実施経過、反省、課題等を通し、見直しに繋げております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に応じて報告、相談等の情報収集に努め、家族を含め良い方向へ行くよう取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加する事で、地域住民の実感を持ってよう支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続とご家族の意向のもと、訪問診療を受ける方等、ニーズに応じて医療を受けられるよう支援しております。	かかりつけ医の継続を基本にし、訪問診療も可能な体制を整えている。受診には職員が同行し、必要に応じて家族にも報告し、受診結果を個人毎に記録して内容を把握している。	

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	12月より看護職員が週1回勤務し、個々の状態情報を伝え、相談、助言を頂き適切な受診や看護を受けられる様に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院手続き、荷物の用意、担当医との情報交換又、面会時に様子、退院時期等医療機関と連携を図り早期退院に向けての関係作りに努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を作成し、ご家族とも契約しております。重度化、終末期となった場合は、ご家族、医師、施設で話し合い、ご家族の意向のもと支援させていただいております。	利用開始時に、一時的な医療処置の対応は可能であるが、継続する場合は入院方向もありうることを説明し、同意を得ている。状態の変化に応じて家族の意向を確認し、終末期は主治医の判断の下で可能な限り看取りケアを行っている。方針を個人記録に記載して経過を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	記録、周知、ミーティング等で急変、事故に備えシミュレーションを行って対応出来る様につとめております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	チェック表を用いながら確認し、ミーティングや避難訓練等の時に勉強させていただいております。	消防署立会いで日中を想定した避難訓練を行い、町内会役員は車椅子を押して誘導に参加している。今年度中に夜間を想定した訓練を予定している。災害時の備蓄品類や発電機などを整備しているが、職員の救急救命訓練は一部のみの受講で、十分とはいえない。	夜間を想定した避難訓練には、近隣の人にも参加を働きかけ、役割を明確にしての実施に期待したい。今後も職員の救急救命訓練の受講を計画的に行われるよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を否定する様な上からの物言いや、危険をともなった行為にも、ご本人が反省していただける様な言葉かけに注意しております。	職歴を把握して適切な言葉かけを行い、気になる言葉かけは、職員同士でもお互いに注意をしている。失業時などは、羞恥心に配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に行動、一緒に考え、話しやすい雰囲気作りに心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本意のペースに出来る限り添った支援に日々努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時は、一緒に色品替えを行い、外出時はご本人の希望を聞き着替えなどしております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々、皆様のリクエストに添いお好みの食事を楽しんだり、時には一緒に作ったりいたします。	旬の食材を活かした、栄養バランスの良い食事を提供している。出張握り寿司を楽しんだり、おはぎや桜餅など、季節に応じた品を利用者と一緒に作っている。職員は、味付けなどの会話をしながら食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平均水分量から大幅にずれ込まぬ様に個人の状況を見極めながら、飲水頂いております。栄養バランスもカロリー計算の献立のもと、一人ひとりに対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り、声かけをし、義歯や舌にも清潔を十分こころかけるように努めております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握し出来る限りトイレで排せつできるように、仕草にも気配りしております。	寝たきりになる事なく、座位が保てるように日頃から取組み、可能な限り昼夜ともトイレで排泄できるように支援している。自立している利用者も、排泄後にチェックをして、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分の種類、飲水時間等に工夫し、冬場は運動不足になるため室内の動きに気配りして予防に努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に応じて週2回は入浴されており、入浴を渋る方にも興味あるお話しを持ちかけ、気分良く楽しんで頂くよう努めております。	日曜日は、利用者と一緒にゆっくり過ごせるように、入浴の予備日にしている。利用者や職員のストレスにならないように、状況に応じて二人介助での入浴など、臨機応変に対応している。体調に応じて短時間で入浴や、好みの湯温に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣を重んじて夜遅い方には朝遅く起床して頂いたり、夜中トイレ通いの多い方の配慮に心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変化があった場合などは、精神面、睡眠、覇気、行動に気配り適宜対応に心がけております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり、カーテンの開閉、日めくりカレンダー等の小さな事でも責任をもってやって下さいます。また、かるた、昔話し、レクリエーション等も楽しんで下さいます。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場でも受診帰りに遠回りなどのドライブ、買い物と天候によって行うよう心掛けております。夏から秋はご家族様と共に買い物やお墓参り、親戚、本人の住居等へお出かけしております。	年間を通して、毎月1回は外出できるように工夫している。冬季以外は、車椅子利用者も一緒に近隣を散歩したり、畑仕事などで外気に触れている。天気や利用者の体調に応じて、道の駅や近くの観光名所などに数人ずつ出かけるなど、外出をあまり好まない利用者も、外気に触れる機会を積極的に設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご家族の意向で所持されている方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物等が届いた時には、お手紙の返事等に電話で対応支援させて頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、整理整頓に努め、共用空間で居心地よく過ごして頂けるよう努めております。四季を感じて頂くべく時期の花、観葉植物、正月飾り、雛人形飾り、毎月のカレンダー作り等で季節感を取り入れております。	玄関や居間、対面式の台所など、一般家庭と同じような造りで、自宅にいるように落ち着いて過ごせる空間になっている。トイレは、居間から見えにくい場所にあり、プライバシーにも配慮している。居間のソファは窓の方に向けて配置されており、ゆったり座りながら、戸外の様子を身近に感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にソファを置き、自由にくつろげる居間でお気に入りの場所をそれぞれ確保され、思い思いに過ごされる様子を見守っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている寝具、衣類、ご家族からのプレゼントの品、写真、家具等安心できる居室になるよう心掛け、落ち着いて生活できますよう支援しております。	職員は、各利用者が居心地よく過ごせるように、室内を整理整頓したり、思い出の写真などを飾るなど、その人らしい居室づくりを支援している。各利用者の残存能力に応じて居室で使用できるように、洋服ハンガーや洗濯物干しなども事業所で準備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーで、居間には大きな日差しが入る窓があり、各所に手すりがあり、移動に活躍、車椅子対応トイレの広さで安全に生活支援を行っております。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あかるい家

作成日：平成 25年 4月 5日

市町村受理日：平成 25年 4月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を想定した避難訓練に近隣の方々に参加を働きかけることと、職員の救急救命訓練の受講を計画的に行なっていくこと。	年2回の避難訓練には、引き続き近隣の方へ参加の働きかけを実施し、救急救命訓練にも計画的に参加する。	3/28に近隣の参加を呼び掛け、夜間想定での避難訓練を実施致しました。救急救命訓練の受講については、消防署、本部等調整を取りながら参加し、ミーティング等で広くスタッフへ周知する。	1年
2	26	3ヶ月毎の見直し時では全員で介護計画に基づき評価を行っているが、介護計画に連動した個人記録をさらに分かり易いものにできないか。	4月の個人記録から開始できるように計画する。	個人記録にプランをのせ、毎日大事な項目をモニタリングし、1枚の用紙で整理する。	即日
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。